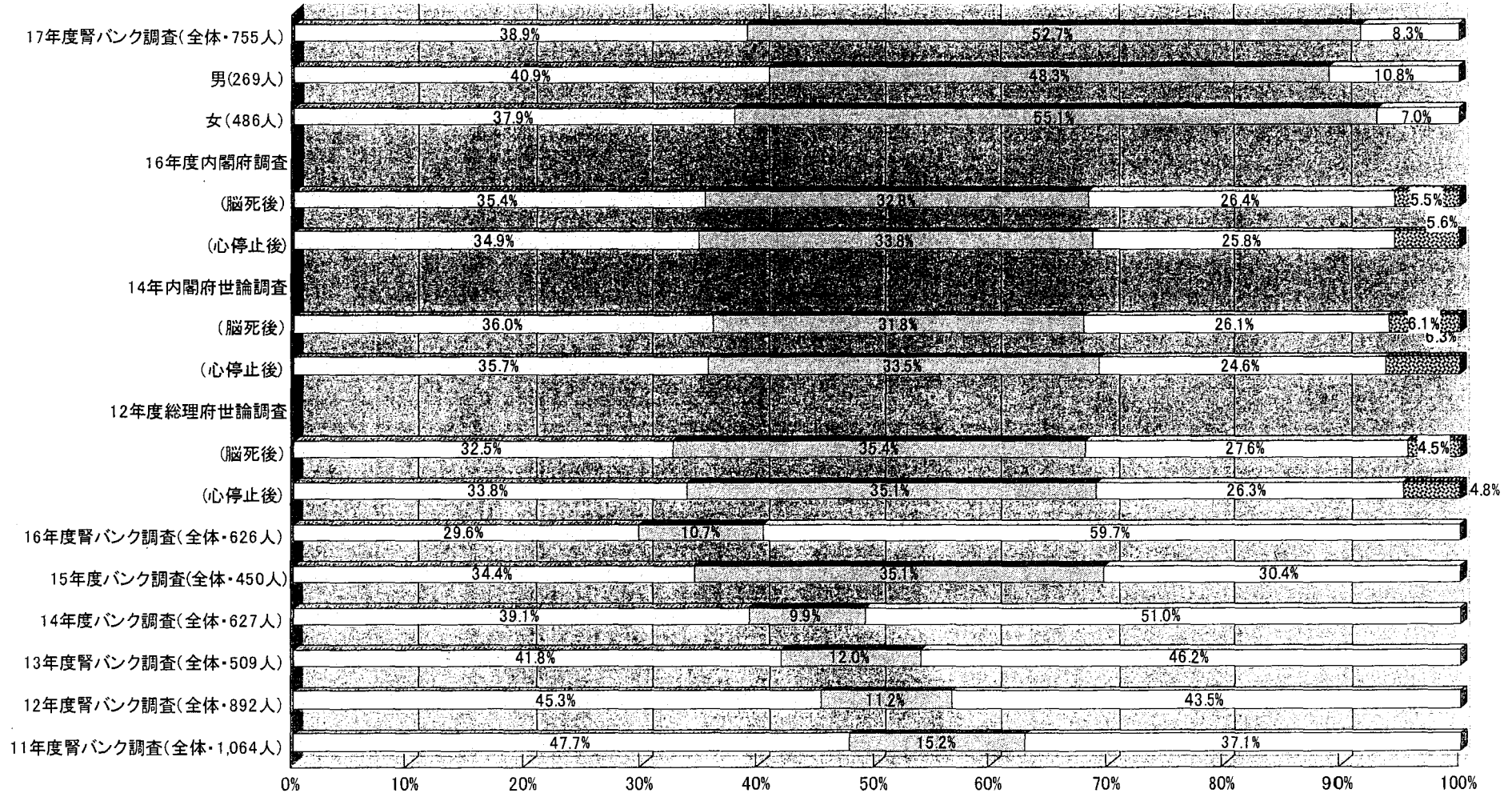


# 臓器移植に関する県民調査結果④

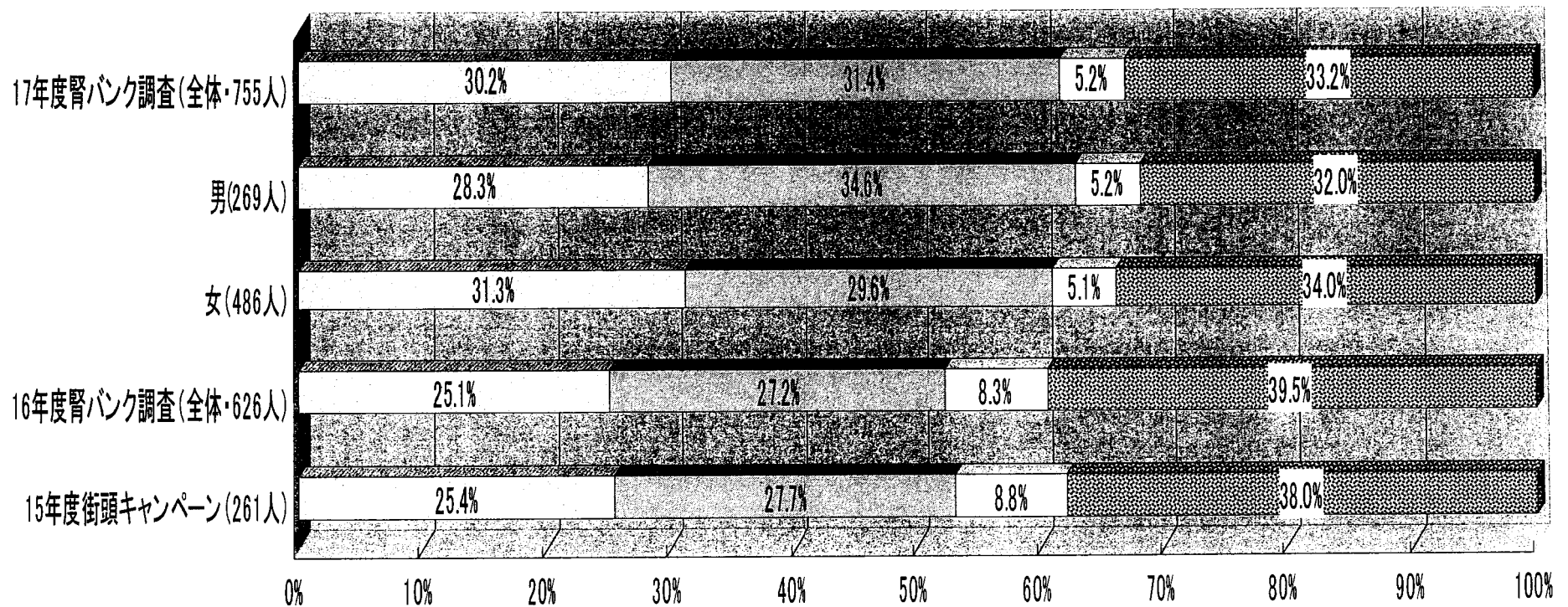
## 臓器提供の意思



提供してもよい
  提供しない
  どちらとも言えない
  分からない

# 臓器移植に関する県民調査結果⑤

家族が従前より提供の意思を示しており、その家族が蘇生不能になった場合どうするか



□ 自分から申しでる □ 医療者から話があれば提供する □ 提供しない ■ どちらともいえない

# 医療施設啓発

「誰のための臓器提供か」を基本において関わる

◎家族のために

- 1 家族を亡くす方への視点を大事に
- 2 提供者、家族の価値観を大事に
- 3 家族が温かみを感じることができる終末期医療の実践につなげていく

◎提供病院にとってのメリットを重視する

- 1 家族ケアの充実  
⇒治療・看護、病院に対する納得度の向上
- 2 リスキーな臓器提供を確実に

# 高知赤十字病院における取り組み

- 研修医を対象とした講演実施
- 病院職員との学会発表を実施
- 脳死下臓器提供マニュアル改正

# 高知医療センターにおける取り組み

- 脳死判定委員会開催(1回/月)
- 臓器提供マニュアル作成(電子カルテ収載)
- 脳死症例検討
- 外来患者カード所持調査
- 職員意識調査
- 脳死患者家族の支援検討
- 研修会開催(看護師・院内全体)

# 外来患者カード所持率調査

目 的：高知医療センターにおける臓器提供の  
可能性を調査する

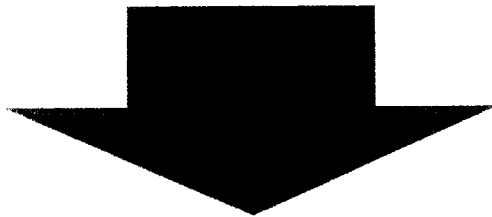
対 象 者：15歳以上の外来初診患者

調査項目：カードの所持の有無  
カード所持者の臓器提供意思  
患者との続柄

期 間：救急外来における調査(2005年9月～)  
一般外来における調査(2006年6月～)

# 病院啓発における課題

- カード所持者は少なく、医療者が臓器提供の話をしてしても断られることが多い
- 家族に臓器提供の情報提供を継続してくれている、医療者のモチベーション維持を図る必要性がある



一般啓発が重要である

# 一般の認識

- “脳死移植”という奇妙な言葉が使われている
- 脳死は“理解されないとわからない死”でありながら、ほとんど理解されていないのが現状であろう
- “移植”という言葉は知っているが、“提供”は考えた事もない

この現状の改善を  
図っていく必要がある